

ものづくり熱中し、音楽を友として過ごして来ました。 今、40年ぶりの楽器に挑戦しています

浜松(ゆうゆうの里) 堀内二三夫様(75歳) 令和2年2月 一人入居

幸いにも仕事は面白く定年まで勤めました

静岡県掛川市で農家を営む両親のもと、兄3人、姉2人の6人きょうだいの末っ子として育ちました。一番上の兄とは22歳、すぐ上の兄とも6歳離れており、一人っ子みたいに育ちました。中学を出て就職することになったのですが、まだ15歳ですからどのように就職先を決めたらいいのかもわかりません。長兄が刈谷市に住み自動車工場に働いていたので、半分旅行気分で見学訪問。同じ刈谷市にある自動車部品工場に決めました。気軽に決めましたが、



エアロフォンを片足立ちで演奏する堀内様(昨年の文化祭)

幸いにも仕事は面白く定年まで働くことができました。就職して半年後の11月、優しかった母が脳梗塞で突然亡くなりました。たった数か月でしたが実家に送り行ができたことがせめてもの親孝行でした。プレス加工、金型製作、自動機製作を経て、50歳からは、それまでの経験を活かして修理部門に異動しました。工場内の設備の故障が試行錯誤の末にピタッと直った時の気持ち良さはたまりません。

音楽が好きになったのはきょうだいの影響です

音楽は兄や姉の影響で自然に好きになりました。幼い頃から兄達の家でハーモニカやギターを練習していましたし、姉は町内の盆祭りでも歌うほど歌が好きで、流行歌のレコードもよく聴いていました。就職してすぐに私は小さなラジオを買いました。あの頃はレコードコンサートというものが流行っていてラジオがよく実況していました。そこで耳にしたタンゴに感動。早速、お給料でステレオを買って、タンゴの世界にどっぷり浸かりま



した。アルフレッド・ハウゼン・オーケストラが大好きでした。25歳のころには、近所にエレクトーンを教えてくれる先生がいたので習いに通いました。二年程通って発表会にも二回ほど出ました。子供ばかりの中で大人は私くらいでしたよ。スーツを着て緊張感いっぱいでした。確か「夜霧の忍び合い」とか弾いたかな。ところがだんだん難しくなると、せつかく買ったエレクトーンは埃を被ったままとなりました。

定年退職直前の手術で思ったこと

60歳で定年退職したのですが、その直前に内臓の病気で手術をしました。幸いこの時の入院はひとりでこなせましたが、これを機に「今後動けなくなった時は困るだろうなあ」と考えるようになり、自分は元気なうちに入れる施設にしようと思われました。69歳の頃、NHKの「海の近くの老人ホーム」というドキュメンタリー番組を観

て感銘を受け、すぐに問い合わせ。系列の施設が浜松の「浜名湖エデンの園」と知り見学に行きました。そこで初めて浜松(ゆうゆうの里)のことを知り、改めてこちらも見学しました。緑たっぷりの中庭を歩きながら、ここに決めました。

「浜松といえば音楽の街」と思い立ち、エアロフォンにチャレンジ

朝は4時から5時の間に起きます。すぐにパソコンを立ち上げてYouTubeを観たり、キーボードの練習をして過ごします。朝食後に一時間のんびり散歩。散歩の途中で「おはよう」と声を掛け合う顔見知りがありました。グラウンドゴルフに誘われ仲間に入りました。

入居が決まった時、「浜松といえば音楽の街」と思い立ち、ローランドのエアロフォンというデジタル管楽器を購入しました。40年ぶりに楽器の挑戦です。去年の文化祭では片足立ちでのエアロフォン演奏を思いつき披露しました。2分30秒の片足立ち演奏が無事終了すると、皆さんから温かな拍手をいただきました。そのおかげで「キーボードミュージックサークル」に誘われたのです。今は秋の文化祭を目指して練習を重ねています。みんなと一緒に上達したいですね。